



Masako Awata

栗田昌子 議員

Q・QRコードラベルの普及を

A・状況を見ながら検討する

Q 本町の徘徊高齢者対策は。

A 生活福祉部長
GPS端末機を貸し出している。

Q 登録者数は。

A 生活福祉部長
1名である。利用を希望する方に貸し出している。

Q 利用者の費用負担は。

A 生活福祉部長
1人あたり月額500円である。

Q 町の経費は。

A 生活福祉部長
町の負担は、月額税込みで、5940円である。

Q 過去3年間の利用者は。

A 生活福祉部長
平成26年度は0名、27年度と28年度は1名であった。

Q 高齢者見守りQRコードシールがある。安価で耐久性に富み、色々な物に使用でき、機能的である。私が視察した三重県志摩市の場合は、役所の費用も、作成費用1セット2000円の初期費用のみ。最低2年間使用できる。1000回の洗濯に耐えられるという。利点の多いQRコードシールについて、どのように考えるか。

A 生活福祉部長
QRコードラベルは、衣服などに張り付けするため、GPS端末機を持たせることが困難な認知症高齢者に使用することができ、発見者と家族はお互いに匿名でネットの伝

言板上で、居場所等の情報のやりとりができるメリットがある。地域の見守りや支援を得る媒体になる。そのためは、地域住民の協力が必須。見守り活動の推進、QRコードラベルの操作等の普及が課題である。徘徊高齢者の現状や他市町の状況を見ながら検討する。

Q 本町で採用しているGPSとの併用は。

A 生活福祉部長
6月議会で「高齢者の足を守る施策」を質問した。これに対し、秋に実施するアンケートの結果を福祉計画に反映すると答弁があった。アンケートの結果と反映は。

Q 現在、高齢者保健福祉審議会で議論中である。

Q・福祉計画のアンケート結果は

A・現在議論中である



▲志摩市のQRコードシール

A 生活福祉部長
本町では、徘徊高齢者を検索するためのメール配信の導入を考えている。